

釈尊伝蒔絵安置

去る六月二十六日、予てより作成中でありました釈尊伝蒔絵の内、降誕よ



降魔成道の場面

釈尊の視線は本堂のどの場所から見ても参拝者を見つめて下さるように制作されている

り成道の場面が、仙台(有)東北工芸製作所様より納入されました。この釈尊伝蒔絵は、本堂耐震工事により生じた大きな壁面を、布教伝道の為に有効利用するべく計画されたものです。構想二年、製作四年の歳月を要した作品は、原画を作成して頂いた兵庫県鷄足寺住職平出全价師と、蒔絵師の渡辺栄一氏、企画作成を全面的にお手伝い頂いた東北工芸の佐浦康洋社長の尽力により、二五〇〇年の時空を超えてお釈迦様が当山にお出ましになりました。無事らしい出来栄となりました。無事の納入に当たり、先ずは作成に関わられ



佐浦氏 住職 渡辺氏

たすべての方々に心より御礼を申し上げますと存じます。法縁各位におかれましては、お近くにお出掛けの際には是非お参りして頂ければ幸甚と存じます。尚、今回安置された蒔絵は上記の通り降誕から成道の場面で、二〜三年の内にお釈迦様の後半生を描いた蒔絵が納入されることになっております。図の詳細と、本図で使用された蒔絵の技法などは、次号以降で紹介申し上げます。



完成した蒔絵は縦150cm×横500cmの大きさ

昭和34年3月16日
塩竈連合寺院 妙心寺開山六百年遠忌団参

「思い出で綴る六百年遠忌団参」



列車通過待ちのスナップ、秀峰和尚、母、中野さん

思えば丁度五十年前の今日三月十六日であった。

平成二十一年三月十六日、今日東園寺成也和尚よりいつもの東園寺会報が届いた、いつもながら

話題性のある会報、特に今回は法灯行脚の記事、ふと私も五十年前の遠忌のことを思い出したので、お礼の電話を兼ねてその旨を話した、成也和尚から次号にその事を書いてと言われ、頼りない記憶ではありますが、一筆書き上げることにしました。

当時東園寺先々代秀峰和尚は少し遅い輪番で宗務所長をしておられた（本来なら宗会議員と言うところ）、今回の団参は二等列車十二両の二週間あまりの大旅行、今なら世界一周が出来る

ほどの旅程、企画準備と大変なようでありました。

数年前から始まった毎月の団参掛け金、塩竈郵便局の高木さんが毎日のように来ておりました。確か本山の花園連合会長が東園寺総代、北浜の下山さんでした。それでよくご夫妻で上洛上山されるとよくお世話を致しました。

また塩竈四ヶ寺の和尚さん達も良く出入りしておりました。戦争帰りの若い和尚さん達をよく面倒見ておりましたのも、こうしたことが実って、この度の六百年遠忌団参大旅行が出来たのだと思うのです。

出発当日三月一日、塩釜駅（貨物駅）に貸し切り二等列車がホームいっぱい



母と富士山をバックにまさか富士山を毎日拝むようになるとはこの頃は思いもしませんでした

に停車しておりました、留守居役の精道和尚（当時東園寺副住職）の見送りを受け五百人余の人々を乗せた列車が発しました。臨時列車です。隙間をぬっての

進行、特急並みの時もあれば何時動くのか解らない列車ダイヤ、しかしその分、列車内は毎日が持ち込みの料理での宴会続き、今思うとよく身体が保ったものと不思議です。

上野から記憶ではスイッチバックの路線を走って戸隠へ、雪の中コタツを中心にして卍型に寝床を敷いて休みました、雪を盛った「戸隠そば」美味しかったですね。

長野善光寺をお参りして、門跡より拝数珠、奇声を上げながらの本堂下のお胎内めぐり次ぎに着いたのが片山津温泉、駅頭での歓迎はプラスチックバンドにミス片山嬢からの花束贈呈、母「のぶ」の



列車に添乗した車掌さんと仲良く、各泊で日本食堂のお嬢さん達、お嬢さん達が先々で、夜は2週間頑張ってくれました。

の地元朝刊には写真入りで報道されていた。

食道楽の雲上寺小林和尚、駅ごとに名物を食するのが趣味、北陸線は特にこの時分「ホテルイカ」「鯛めし」「越前ガニ」等々、良くあれだけ食べられるな！と感心しました。

また、仙台の瑞鳳寺正紀和尚はなかなかの茶人、善光寺では門外不出の「さんしゅう」の実を拾い集め、列車の暖房を利用して茶造り、時節から名庭園の椿を大根に刺しては採取して旅を楽しんでおりました。その時の椿など瑞鳳寺に残っております。

それぞれに楽しみ方は違っても今とはだいぶ違った楽しい団参旅行でした。いよいよ瀬戸内海、広島尾道に早朝着いて、連絡船で四国へ渡りました。屋島、長い階段を上っての金比羅山参り、緊張してか何年かぶりです少女に返ったと言う方もおり賑やかなお参りでした。そして兼六園、八十八ヶ所の一部を廻りました。

本土に戻って、高野山へ、ここで私は花園大学の卒業式のため、一足先に花園へ、ついでに団参宿泊の準備、東海派塔頭寺院へ布団の手配などに奔

走しました。

三月十一日団参列車は京都駅車庫に停車、団参ご一行は妙心寺へ。当夜は春雨、その中を各塔頭へ案内遠くは門外の兄秀学さんの仙壽院までご案内しました。

瑞鳳寺和尚はじめ宮城出身の天野、佐藤、松浦など今は大和尚の面々が加担してくれました。

私の宿泊は旅行中とは申しますとほとんどが同じ列車中に寝泊まり、京都駅の列車の中に二泊致しました。これも又楽しい思い出の一つでもありました。

団参を無事済まして、奈良からお伊勢さんへ。二見浦などを参りました。

旅行での塩竈の方々の買い物はすさまじい限りです、列車に乗ってから、



箱根芦ノ湖の船上 母と小原さん

自分の店で扱っている魚類まで夢中で買ってしまったり、言う有様、それでも列車まで持ち込めば塩竈終点まで届

くからいくら買ってきてきても安心です。折角の土産が、車中の宴会に消えてしまう物もあります様でしたが。

いよいよ旅行も終盤戦、熱海は「暖海荘」。この時撮った写真は真に哀れなくらい、疲れ切って憔悴している私の姿が映っています。また瑞鳳寺正紀和尚が写した箱根へ行くバスでのスナップは今もそれを物語っているようです。

箱根十国峠、箱根芦ノ湖は今では私の庭のようなものですが、ここを通ると五十年前の往時を偲び、今ではほとんどの方が鬼籍に入られた方々ばかりのことを思い出します。

東京、塩竈へと着いたのが彼岸前の十六日でした。

私は四月十日皇太子の成婚の日、四月の大雪の日、内城の内海理髪店で剃髪して、父母はじめ団参でなじみになった人々に見送られて、鎌倉円覚寺の雲水となって修行に入りました。からくもその時、円覚寺朝比奈宗源老師のもと、無相大師報恩接心に参加した思い出が「私の六百年遠忌団参」でありました。

平成二十一年三月十六日 大聖禪堂人

上村 貞 嘉

東園寺お盆行事のご案内

東園寺のお盆法要

※お盆の法要と七如来(精霊札)について

東園寺では

昭和四十二年

より従来行わ

れていた柵経

を廃止してい



※

ます。檀信徒の方々には精霊迎え法要や精霊送り法要にご参加頂き、七如来の妙号をお受け頂くことにより、お盆の供養としております。

お盆とは「逆さに吊るされる苦しみ」を意味する盂蘭盆という言葉が略したものです。盂蘭盆経によれば、盂蘭盆とは七代前までのご先祖様が倒懸(上記のさかさまに吊るされる苦しみ)の苦しみを味わうこと無きよう、また父母が現存しているときは、この父母が百歳の長寿を全うするように、雨安居という三ヶ月の修行を終えられ心清らかになられた僧侶に供養することであり、今日の日法要では盂蘭盆会の法要と施餓鬼会と呼ばれる法要が混交し、臨済宗でなされるお盆の供養は施餓鬼法要をもってお盆の供養に当てること

になっております。

施餓鬼とは六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天)の中でも三つの悪い世界の一つに数えられる餓鬼道のことを救う法要で、お釈迦様の弟子である阿難尊者が餓鬼に三日の命であることを告げられ、これを回避するためにお釈迦様の教えにしたがい行われたとされるもので、直接盂蘭盆会とは関係がありません。しかし盂蘭盆会は、餓鬼道に落ちた母を目連尊者が救う為にお釈迦様の教えにより行った法要が起源とされますので、餓鬼を救うという意味では盂蘭盆会と施餓鬼会が結びつくのは決して不自然なことではありません。

盂蘭盆会の由来へと話を戻しましょう。餓鬼道とは飲食がままならぬ世界であります。神通力に長けた目連様は、餓鬼道に落ち、やせ衰えた母に食物を



運びますが、母が口にしようとする、たちどころに食物は炎に包まれ炭になってしまったと盂蘭盆経には記載されています。このように餓鬼の世界は食物を得るのにままならぬ世界でありますが、それだけに食に対する欲望はとても多いのだそう、餓鬼が凶示された場合に喉が非常に細く、またお腹が非常に膨らんでいるように描かれるのは、欲望が大きく食が得がたい事を意味しています。(もつともこの餓鬼の描写は実際に飢餓に苦しむ人々がモデルになったであろうことは想像に難くありません。) 餓鬼道は私利私欲が強く、他に施しをせず、人生を送った者が落ちる世界であると説かれます。七如来とはこの餓鬼道に落ち苦しむ者を救う佛様です。お盆の期間中は、十二日の法要で開眼された七如来の名号を施餓鬼棚あるいは仏壇の本尊として頂き、自らの先祖のみならず、広く餓鬼幽霊を救うおつもりで供養して頂ければ幸甚と存じます。

八月八日より十二日まで お墓掃除

・きれいなお墓でお盆を迎えましょう!

八月十二日 午後六時

施餓鬼法要(精霊迎え法要)



・ 餓鬼の苦しみを救ってくださる七如来を開眼し、お盆の幕開けとします。

・ 蓮華の形をした蠟燭で御霊を迎えます。法要後は参加者各家に蠟燭を差し上げます。(数に限りがありますので、各家に付き一つとさせて頂きます。)

・ 法要後に七如来名号(精霊札)を授与します。お布施は十三日以降に納めて下さい。

八月十三日 終日

七如来名号(精霊札) 授与

・ 七如来名号(精霊札)を授与します。
 ・ 喪中の家以外は赤の熨斗袋に布施と書いて納めて頂ければ結構かと存じます。

八月十四日 午前十時 新亡供養

・ 新亡の方には改めてご案内を申し上げます。

八月十五日 午前十一時三〇分

平和祈願戦没者供養法要

・ 寺内の法要ですが、ご自由に参拝して頂いて結構です。

八月十六日 午後六時

盂蘭盆会総供養(精霊送り法要)

・ お盆の各自宅にお持ち頂いた七如来名号の総供養です。

・ お返し頂いた方すべての家名を住職が唱え供養します。

・ 七如来名号は必ず十六日午後六時までに返却して下さい。もし返却出来なかった場合は自宅で焼いて頂くか、後日寺に納めて下さい。

盂蘭盆会供養 地主

盂蘭盆会供養塔婆 一体七〇〇円

八月一日より受け付けます

ご自分の墓地はもちろん、他家の墓地にお参りした際の供養のしるしになります。

地藏流し法要 九月二日午前十時

海にお地藏様の札を流し、先祖の供養をするものです。新盆の方は是非参加して下さい。



平成二十一年九月二日
 午前十時塩釜港出港
 供養料四千元

第三十回 花祭りの夕べ



※ 去る五月十六日恒例の花祭りの夕べが本堂で開催されました。本年は花祭り夕べ三十回を記念して、京都千本えんま堂狂言保存会の皆さんによる「伊深の

里のえげん坊」「でんでん虫」を上演して頂きました。また当日はスペインヤルゲストとして中国内モンゴルの舞踊学校の小学生によるモンゴル舞踊も披露され、盛りだくさんの花祭り第三十回記念大会となりました。

※写真はフリーレクシオン岡本好明様

墓地情報

新規墓地永代使用希望者募集中!

先祖の安らぎの場は、梵鐘の声響く境内墓地に。

従来の墓域にも、永代使用頂ける墓地がございます。寺務所にご相談下さい。永代使用冥加金三十万円より。

塩釜中央幼稚園☆塩釜第三中央幼稚園

幼稚園だより



外遊び（中央）



入園式（第二）



キッズクラブ（第二）



サッカー教室（中央）



書道教室（中央）



体育クラブ（第二）



避難訓練（中央）



プール遊び；アシストにて（第二）



造形教室（第二）



プール遊び；アシストにて（中央）



モンゴルの小学生達交流（中央）



誕生会（第二）



卒園式（第二）



遠足：湖畔公園（中央）

幼稚園運動会のお知らせ

塩釜中央幼稚園

【日時】9月26日(土)午前9時

【場所】塩釜第三小学校

塩釜第二中央幼稚園

【日時】10月10日(土)午前9時

【場所】多賀城東小学校

※来年度入園予定のお子様の園技も御座います。是非ご来場下さい。

◎墓地エレベーター事業

昨年より下準備を始めました墓地エレベーター事業計画ですが、現在やっと設計見積もりが提出されるころまで計画が進んでおります。設計見積もりは後述の通りで、予想よりも可なり費用が掛かりそうです。三月一日、六月十九日の役員会では、住職の提案により、建設費用の約半分を東園寺が負担し、残りの半分を募財に頼ること、さらに募財は強制力を排除し、篤志者を募るということが決定いたしました。以下はこれまでの建築計画の流れです。

・これまでの流れ

○平成二十一年二月一日 責任役員・総代・世話人・合同会議において墓地エレベーター建築計画を遂行することが、賛成多数で可決される。
○五月一日 檀家信徒総会にてエレベーター設置計画の報告がなされる。住職より募財は強制力を持たない形式で実施することが約束される。
○五月十八日 今野建築設計事務所より下記内容の概算見積もりが提出され、五月三十日の責任役員会議並びに六月十九日の役員会にて審議を受けて了承される。

今野建築設計事務所の見積

共通仮設工事五、〇〇〇、〇〇〇円
直接工事二、二〇〇、〇〇〇円
諸経費二〇、〇一六、〇〇〇円
合計一三五、二一六、〇〇〇円

※設計見積りは実際の工事価格を上回る事が多く、実際の工事価格は一一〇、〇〇〇、〇〇〇円程度に抑えられるものと思われる。但し、これには不動産等の環境整備費が含まれていない為、事業全体では一五、〇〇〇、〇〇〇程度になると予想される。

※この金額の内、約半分を東園寺が負担し、七〇、〇〇〇、〇〇〇円程度の募財を実施したい。これは五月一日の檀家信徒総会にて住職より提案された通り、強制力の無いものとする。

募財について～住職私見

檀信徒各位におかれましては、日頃より菩提寺護持に関し格段のご厚情を賜り心より御礼申し上げます。さて、この度の境内整備事業に際し、募財の有無、或いは募財金額に關しご不安をお持ちの方も少なからず居られるものと存じます。役員会ではエレベーターの設置場所と各々の墓地の遠近により不公平が生じる等の意見もありました。他にはあまりの例の無い墓地エレベーター整備計画ですので、一律に建設金額を檀信徒数で頭割りして募財金額を決定する

事は、確かに不公平感を生むものであることは小納も理解するところであり、以前に本堂の耐震工事をする際には、本堂の耐震工事は寺の資金を中心に行い、エレベーター建築事業は檀信徒主体でお願い申し上げる旨を檀信徒総会で申し上げましたが、この五年間で、世の経済状況は悪化の一途をたどり、檀信徒の方々に高額の募財をお願いすることも心苦しい時勢となりました。

そこで今回の募財も篤志者による志納とし、財源の確保の為に、宗教法人東園寺による私募債発行等を検討致したいと考えております。また、境内墓地以外をご利用の檀信徒の方々には、当然ながらエレベーターに關する募財はお願い致しません。但し、今回の境内地整備事業の中で行われる別院不動堂と駐車場整備事業等に關しては、ご協力をお願いする事もあろうかと存じます。何卒宜しくお願ひ申し上げます。また、本事業に關し檀信徒各位のご意見を頂戴出来れば幸甚と存じます。



成也 合掌

宗教法人 東園寺	〒985-0026 塩釜市旭町4-1	022(362)0777	寺務所
学校法人 東園寺学園	〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51	022(362)8651	中央幼稚園
		022(365)5616	第二中央幼稚園
代表役員 千坂成也	理事長 千坂秀也	022(364)4444	FAX
	花園会・会長 阿部久壽		

東園寺ホームページ <http://www.toenji.com>

座禅会法話会の情報はYahooブログ「布袋の袋」

